

松尾隆祐名誉教授が「2003 年度ハフマン賞」を受賞

第 58 回カロリメトリー会議（通称 CALCON2003）が日本熱測定学会との初めてのジョイントミーティングとして 2003 年 7 月 27 日～8 月 1 日の期間、ブリガムヤング大学ハワイ分校で開催され、名誉教授の松尾隆祐先生がハフマン記念賞（Hugh M. Huffman Memorial Award）を受賞されました。この賞は、化学熱力学の基礎を築きカロリメトリー会議の創設に尽力したハフマン博士の功績を称えて 1954 年に設けられたもので、化学熱力学研究における長年に亘る世界的な貢献に対して贈られる賞であり、今回は記念すべき第 50 回の受賞にも当たっていました。日本人としては名誉教授の菅宏先生（1992 年受賞）と祖徠道夫先生（2001 年受賞）が受賞されており、3 人目のハフマン賞受賞者となられた。いずれも本センターに関わり大きな貢献をしてこられた先生であり、仁田勇名誉教授・関集三名誉教授により創始された化学熱力学研究が脈々と連なり実を結び、本学の輝かしい伝統として発展し続けていることは喜ばしい限りです。後進のわれわれにとっても非常に心強いことです。

受賞講演は例年通り開会式直後の会議冒頭に行われましたが、受賞式は当日のパケットで行われるという例年のない趣向がありました（写真）。受賞記念講演は“Calorimetric Studies of Quantum and Classical Disordered Systems”と題するもので、前半では熱測定装置の考案など実験的な詳細に触れられ、後半では幾つかの研究の代表例が紹介されました。乱れた系は、そのまま凍結するガラス状態を別にすれば、一般には熱力学法則に従い低温ほど秩序を獲得し、場合によっては相転移を経て完全な秩序化を実現する。一方、水素原子など軽い原子で構成される分子やイオンが結晶中の高い対称性を有する位置に、しかも弱い相互作用しか働かない環境にたまたま置かれると、量子効果が顕わになって異質な乱れが実現されるという主旨でした。

本会議では毎回、幾つかのテーマを主題とするシンポジウムを設けていますが、そのひとつとして予定されていた“Thermodynamics of Materials including Polymers”が、松尾先生の受賞決定と同時に特別な意味をもつことになり、旧知の間柄である White 教授（ダルハウジー大学）がこのシンポジウムの基調講演を行い、松尾先生が取り上げた系のひとつ“包接化合物”の研究の過去・現在・未来について、松尾先生の業績を交えながら見事なレビューを行いました。また、招待講演は、松尾先生にとって最初の大学院生であった東工大の小國正晴教授と阪大の稲葉が行いました。会議最終日には松尾先生の受賞を祝う夕食会が催され、Westrum Jr. 教授（ミシガン大学）夫妻、Phillips 教授（カリフォルニア大学）

夫妻, White 教授 (ダルハウジー大学) 夫妻, Boerio-Goates 教授 (ブリガムヤング大学) 夫妻が集い, 徂徠先生を含め 25 名がこれに参加しました. 相変わらずのことですが, レストランに最後まで居残り, 熱い議論の輪の中心に松尾先生がいたのは言うまでもありません.

(稲葉 章)

